

プロジェクト課題活動実績

課題名：嘉年地区の次代につなげる持続可能な農業の展開

山口農林水産事務所農業部 チーム員：河部操子、原田夏子、塩田幸恵、山根憲資

<活動事例の要旨>

(農) 嘉年ハイランドは、阿東地域最大の経営規模を有する農事組合法人で組合員の個別精算方式による経営を行っているが、組合員の高齢化やリタイア等による担い手不足に伴い、法人直営田が年々増加してきたことから、直営田経営及び米の販売等を担う

(株) 嘉年ハイランドが新たに設立された。そこで、(農) 嘉年ハイランドと(株) 嘉年ハイランドの一体的な運営体制の確立を目指すとともに、令和2年度に策定された(農) 嘉年ハイランドの中期経営計画を実現するため、効率的な水稲生産のための新たな品種の導入や機械の共同利用への方向性作りに向けた支援並びに(株) 嘉年ハイランドの経営体質強化を図るため、トマト栽培の導入について支援を行った。

その結果、(農) 嘉年ハイランドと(株) 嘉年ハイランドの合同役員会による一体的な運営が確立でき、情報及び意識の共有化が図られ、(株) 嘉年ハイランドと新たに地域の大規模農家による将来的な営農体制の方向性が示せた。また、効率的な水稲生産を行うため、新たな品種が導入された。

嘉年地区の活性化を目的とした人を呼び込む方策として、(株) 嘉年ハイランドの新たな経営部門として新たにトマトを導入する方針を決定し「新規就業者育成プログラム」が策定された。

1 普及活動の課題・目標

- ・ 阿東地域で最初に設立(平成19年)された(農) 嘉年ハイランドは、組合員の高齢化やリタイアが進み、設立当初は157戸だった耕作農家はで98戸まで減少した一方、法人直営田は2haから51haまで拡大したことから、令和2年度末に(株) 嘉年ハイランドが設立され、株式会社が直営田の運営や米・資材等の仕入販売、農作業受託等を担うこととなった。このため、株式会社の経営体質の強化及び(農) 嘉年ハイランドと(株) 嘉年ハイランドの一体的な運営により、永続的な営農ができる体制の強化が必要である。
- ・ (農) 嘉年ハイランドと(株) 嘉年ハイランドを対象に、令和2年度に策定された中期経営計画を実現するため、機械の共同利用化へ向けた方向性づくりや新たな水稲品種の導入検討、スマート農機の活用等などについて支援を行い、効率的な水稲生産体制を構築する。
- ・ また、嘉年地区の活性化を目的とした人を呼び込む方策及び(株) 嘉年ハイランドの経営体質強化を図るため、地域特産品目である夏秋トマトを新たな経営部門とした導入計画の策定を目標とする。

2 普及活動の内容

(1) (農) 嘉年ハイランドと(株) 嘉年ハイランドの一体的な運営支援

- ・ 農事組合法人と株式会社の合同役員会に参画し、営農体制等について随時提案した。
- ・ 両法人の役割等について組合員に周知するため、組織構成図の作成支援を実施し、地域広報紙にて全組合員に配布することにより理解促進を図った。

(2) 水稻生産体制の構築

- ・ 各地区の機械利用状況の実態把握や共同利用に関して幅広く意見を集約するため、集落代表者へのヒアリングをおこない、周辺集落との連携利用の模索や将来計画の検討を投げかけた。
- ・ 地域の営農計画を作成していくために、拡大意向農家等の大規模農家に対して、今後の営農意向等に関するヒアリングを実施し、集落座談会にてヒアリング結果や株式会社と大規模農家で農地を守っていく方針提示について支援を行った。
- ・ 大規模農家と株式会社の担う部分を整理していくため、農地のマッピング作業を実施した。
- ・ 実需の需要状況を把握し、新たな作付品種の導入検討及び栽培暦の作成支援を行った。また、栽培予定地の確認や施肥試験の検討を行った。
- ・ KSAS 対応ドローンやリモコン草刈機等のスマート農機の実演会の開催を支援し、導入検討を行った。
- ・ 収量・食味コンバインと KSAS を活用した施肥改善を実施するサイクルが確立していることを確認した。

(3) 施設トマトの導入支援

- ・ トマト導入形式案に係る経営試算、メリット・デメリット等の整理や既存施設の利活用の模索、トマト団地の候補地について協議し、導入計画の作成支援を行った。



スマート農機の実演会



トマト既存施設の利活用の検討会

3 普及活動の成果

(1) (農) 嘉年ハイランドと(株) 嘉年ハイランドの一体的な運営支援

役員を始め、集落代表者や大規模農家の現状把握や今後の営農意向を把握したことにより、各法人の役割や今後の営農体制等が明確となり、組合員に周知できた。

(2) 水稻生産体制の構築

- ・ 機械の共同利用について、その可能性を模索してヒアリングをしたが、その結果機械共同利用による生産体制は難しく、将来的に農地は(株)と大規模農家に集積される方向性が整理できた。
- ・ 次年度に作期分散が可能であり、需要に応じた新規作付品種「きぬむすめ」の導入(31ha)が決まった。また、嘉年版栽培暦を作成し、栽培予定地の確認を行うことで、円滑な新品种の導入体制を整備することができた。さらに、「きぬむすめ」に適した肥料の導入検討のための施肥試験を実施することが決定した。

- ・ リモコン草刈機の導入意向を固めることができた。
- ・ 収量・食味コンバインと KSAS を活用した施肥改善を実施し、次年度の KSAS 活用計画ができた。

(3) 施設トマトの導入支援

(株) 嘉年ハイランドはトマト栽培希望者を数年間、社員として雇用する形で受入れ、地区内の既存ハウスで技術習得後、嘉年地域で独立就農することで地域への人材定着を図る「新規就業者育成プログラム」が策定され、組合員やあぶトマト部会阿東支部に周知された。

4 今後の普及活動に向けて

嘉年地区の営農が将来にわたって持続するため、中期経営計画が具現化されるよう、優先的な項目から着実に取り組めるよう支援する。